

北見市中心市街地活性化基本計画の概要

北見市 都市再生推進室 主幹 市山 恵一

1. はじめに

北見市は北海道の東部に位置し、面積約1,427.6㎡と全国で第4位の広さを誇り、オホーツク圏の中核都市として位置づけられています。

明治2年には北方開拓使が設置され、「北見国」8郡の常呂郡とされ、以来多くの入植者により開拓が進められ、明治35年頃から始まった北見ハッカは昭和14年に全盛期を向かえ、世界の生産量の約70%を占めるまで成長し、現在の北見市の礎を形成する重要な産業となった。北見駅はハッカ輸送の重要な基地として発展し、北見駅を中心に中心市街地も発展をしてきた。

2. 中心市街地の現状

現在の中心市街地では市街地内の大型商業施設の閉店や郊外に大型商業施設、ロードサイド店が集積されてきたことにより、小売販売額、歩行者通行量など衰退を示す指標が表れてきている。

また、中心市街地内の居住者についても人口・世帯数ともに減少が進んでいるとともに、高齢者人口が増加していることから高齢化が進んでいることが示されている。



3. 中心市街地の区域及び計画期間

今回設定した区域は行政・文化などの公共公益施設、医療施設、商店街など都市機能が集約されている117haを中心市街地として設定している。

計画期間については、平成23年3月から平成28年3月までの5年間としている。

4. 基本計画の基本方針と目標

本基本計画に掲げた基本方針及び目標は基本理念である「オホーツク圏の中核都市にふさわしい経済・文化・医療・商業の集約によるコンパクトなまちづくり」のもと、中心市街地の現状、課題を検証した中で以下の基本方針、目標を定めた。

また、中心市街地として魅力ある「まちなか」を目指し、市民の中心市街地への回帰を目的として、目標数値の達成を図るため各事業を推進していくことにより中心市街地のにぎわいの回復が図られるものと考えた。

基本方針 憩いのある、また来たくなるまちづくり → 交流人口の拡大

目標1

「都市機能の充実によるにぎわい創出」

新たな文化施設・生活関連サービス施設の導入や街歩き観光を支える宿泊施設の立地により、新たな来街者が増えることが予想される。来街者が増えることにより商業、業務ビジネスが活性化し、市民や来街者の満足度を高め、オホーツク圏の中核都市として活力あるまちづくりを推進する。

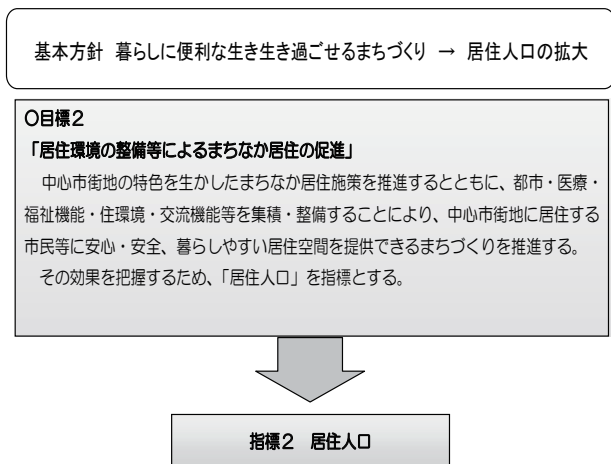
その効果を把握するため、「週末歩行者通行量」を指標とする。

指標1 週末歩行者通行量（金・土・日）

現状数値
週末歩行者通行量合計
7,573人
平成21年度

目標数値
週末歩行者通行量合計
7,800人
平成27年度

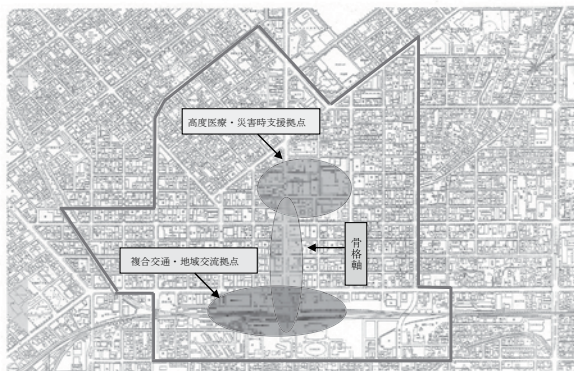




現状数値	目標数値
居住人口 4,422人 平成21年度	居住人口 4,500人 平成27年度

5. 主な事業内容

中心市街地のにぎわいの創出、安全・安心に暮らせるまちづくりを図るために、中心市街地区域内に拠点（2拠点1軸）を設け、重点的に施設整備を進めることとした。



・まちきた大通ビル整備事業

旧東急百貨店跡地を活用し、行政機能、商業機能の他、新たに市民交流機能としての市民交流広場を設置し、市民のコミュニティの場、活用時間消費型の複合施設として環境整備を行ない、にぎわいの回復を図る。

・市立中央図書館整備事業

現在、中心市街地外にある図書館を中心市街地に整備することにより本来の図書機能に加え、中心市街地を訪

れる市民の憩い場として活用する。

また、近隣に所在する北見芸術文化ホールとの連携による文化機能の充実を図ることにより都市機能の集約を図っていく。

・北見赤十字病院整備事業

老朽化、狭隘化した病院に対し新病院整備、延床面積を増加することにより、施設・機器の整備が図られ、オホーツク圏の地方センター病院、地域災害医療センター、高次医療圏の中核病院として良質な医療を提供を図る。

・病院周辺整備事業

新病院建設予定地周辺道路を整備することにより導線の効率化、歩行者の安全確保を図るとともに、公園を市民の憩いの場としてのみではなく、災害時における一時避難、トリアージ機能を有した公園として面積の拡充、整備を行なう。

・まちなかコンサート、回遊イベントなどソフト事業

施設整備等により中心市街地を訪れる新たな来街者を商店街に呼び込み、商店街のにぎわいの回復を図るために各種イベントなど諸事業を北見市商店街振興組合連合会が中心となり実施。

6. おわりに

平成23年3月25日に本計画は内閣総理大臣より認定を受けました。

現在、まちのにぎわいと活力が低下している中心市街地を回復させるための手段として、新たに中心市街地へにぎわいと活力を復活させるための手段として、認定基本計画に掲げたハード事業及びソフト事業の両面からの確実な推進を図ることが中心市街地の活性化のためには必要となっています。

今後は民間、商業団体、行政が一体となり、これら事業を推進することにより基本理念である「オホーツク圏の中核都市にふさわしい経済・文化・医療・商業の集約によるコンパクトなまちづくり」の達成に向け、計画を推進していきたいと考えております。

(いちやま けいいち)